

授業科目	音楽表現技術（声楽）（スクーリング）	単位／時間	1単位/15時間（ピアノ含む）
開講学科等	福祉保育科2年	担当教員	北川 弘子
授業の目的 ・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい音程で歌うことができる</li> <li>・歌唱技術の習得と共に、美しい日本語で歌い表現をする</li> <li>・幼児教育現場に必要な幼児歌曲のレパートリーを広げる</li> </ul>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い分野の幼児歌曲が歌える</li> <li>・近畿大学音楽スクーリング試験 合格</li> </ul>		
授業の計画	1	(2日間を通して)	26
	2	*課題曲の確認	27
	3	*コンコーネ課題曲レッスン	28
	4	*コールユーブンゲン課題曲レッスン	29
	5	*子どもの歌、課題曲のレッスン	30
	6	*発声法について	31
	7	*音符とリズムの理解	32
	8	*歌詞の意味を考えて歌うことについて	33
	9	*課題曲試験	34
	10		35
	11		36
	12		37
	13		38
	14		39
	15		40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義とレッスン（個人レッスン含）		
テキスト/参考文献	近畿大学・九州短期大学 声楽教本、ピアノ教本		
評価の方法 や基準	歌唱実技試験、授業態度など		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	・幼稚園教諭 ・音楽教室		
実務経験の活かし方	・ゼロスタートからの学生にも、わかりやすく歌唱法を指導する ・歌うことを通して”音楽の楽しさ”を伝えると共に、練習を重ねれば”出来る”ことを感じてもらう		
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地道な読譜練習と発声練習を行うこと</li> <li>・保育士希望者としての自覚を持ちながら臨むこと</li> </ul>		

授業科目	音楽表現技術（スクーリング）	単位／時間	1 単位/ 1 5 時間（声楽含む）
開講学科等	福祉保育学科 2 年	担当教員	北川 弘子
授業の目的・テーマ	子どもの歌のレパートリーを増やし、音程の感覚を養う。また、楽典の作品解釈を行い、音楽表現の向上を目指す。		
授業の到達目標	「幼児と音楽表現」での学修を元に、より実践的なピアノ演奏方法、伴奏法、表現法を習得する。また、現場に必要な弾き歌いのレパートリーを増やす。		
授業の計画	1	基礎練習 楽曲振り返り	
	2	ピアノ弾き歌い 3～8	
	3	ピアノ弾き歌い 3～8	
	4	ピアノ弾き歌い 1 0 ・ 1 2 ・ 1 5 ・ 1 7 ・ 1 9 ・ 2 0 ・ 2 2	
	5	〃	
	6	ピアノ弾き歌い 2 5 ・ 2 7 ・ 3 1 ・ 3 2 ・ 3 4	
	7	〃	
	8	ピアノ弾き歌い 3 8 ・ 3 9 ・ 4 4 ・ 4 8 ・ 4 9	
	9	〃	
	10	ピアノ弾き歌い 5 2 ～ 5 5	
	11	〃	
	12	ピアノ弾き歌い 5 9 ・ 6 2 ・ 6 7	
	13	〃 復習	
	14	実技試験	
	15	実技試験	
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
授業の方法	講義、個人レッスン		
テキスト/参考文献	『音楽〈ピアノ教本〉』		
評価の方法や基準	実技試験 80% 授業への積極的参加態度 20%		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	・ 幼稚園教諭 ・ 音楽教室		
実務経験の活かし方	・ ゼロスタートからの学生にも、わかりやすく歌唱法を指導する ・ 歌うことを通して”音楽の楽しさ”を伝えると共に、練習を重ねれば”出来る”ことを感じてもらう		
履修上の注意事項	・ 歌唱実技試験、授業態度など		

授業科目	幼児と造形表現（スクーリング15時間）	単位／時間	1 / 15
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	松田 雅子
授業の目的・テーマ	保育園・幼稚園での年間行事に関心を持たせると共に、教育領域に示された「表現」のねらい及び内容について、背景となる造形表現と関連させて理解を深める。		
授業の到達目標	幼児造形における、イメージ表現の世界に理解を深め、まず、個々の表現に対して感動し、褒める教育のできる教育者育成を目標とする。		
授業の計画	1	■年間の保育行事の中からひとつ選んで	26
	2	色画用紙貼り絵技法によるポスター制作	27
	3	・参考作品鑑賞	28
	4	・アイデア出し 下描き	29
	5	・制作	30
	6	〃	31
	7	〃	32
	8	■保育行事の中から別の行事をひとつ選ん	33
	9	色画用紙貼り絵技法によるポスター制作	34
	10	・参考作品鑑賞	35
	11	・アイデア出し 下描き	36
	12	・制作	37
	13	〃	38
	14	〃	39
	15	■合評会	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	保育園・幼稚園の年間行事予定表からの季節感あふれるポスター制作。イメージの具現化。		
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学 図画工作 保育科資料 モーネ工房 こども寺子屋		
評価の方法や基準	創作の意欲、発想、態度、理論の理解、将来こどもと接する時のコミュニケーション能力。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	児童心理治療施設、こどもお絵描き教室を含む芸術指導歴30余年。新技法習得のため、ワークショップにも積極的に参加。執筆、音楽、映像、食育など、ジャンルにこだわらない様々な表現活動を展開中。		
実務経験の活かし方	実務経験におけるネットワーク作りを大切にし、こども達の心を育むものづくりの楽しさ、感動が、将来の指導者を通じてこども達に少しでも伝わるよう、アイデアを活かしている。		
履修上の注意事項			

授業科目	幼児と健康（スクーリング）	単位／時間	1 / 15
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	神家 美穂
授業の目的・テーマ	運動遊びの特性とその展開について学習し、効果的な保育技術・教材づくりに関する知識の習得を目指す。		
授業の到達目標	運動遊びの「ねらい」を実現するために必要な効果的な指導技術を習得する各種の運動遊びを素材とした短期の指導計画を作成することができる。		
授業の計画	1	オリエンテーション からだほぐし	26
	2	ふれあい遊び 鬼遊び	27
	3	大型遊具遊び（マット）	28
	4	大型遊具遊び（跳び箱）	29
	5	大型遊具遊び（平均台）	30
	6	小型遊具遊び（長なわ・短なわ）	31
	7	小型遊具遊び（フープ）	32
	8	小型遊具遊び（ボール）	33
	9	運動指導のポイント（運動の量）	34
	10	運動指導のポイント（運動の質）	35
	11	運動指導のポイント（環境の工夫）	36
	12	援助の仕方を考える	37
	13	遊びの変化や発展を考える	38
	14	一斉指導と自由遊び	39
	15	まとめの課題（指導計画作成）	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義・実技		
テキスト/参考文献	幼児体育Ⅱ（近畿大学九州短期大学通信教育学部編）保育と幼児期の運動遊び（萌文書林）		
評価の方法や基準	実技中のグループワークへの取り組み（30%）、実技指導内容（環境設定、指導上の留意点）についての記録作成（35%）、年長児を対象とした指導計画の作成（35%）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	認定こども園、保育園において体育講師として乳幼児の体育指導を担当		
実務経験の活かし方	現在の乳幼児の指導経験を活かした具体的な運動遊びの実技・講義を行う		
履修上の注意事項	テキスト必携 運動遊びの指導に適した服装・髪型で受講すること		

授業科目	子ども家庭福祉	単位／時間	2単位／30時間
開講学科等	福祉保育学科 2年	担当教員	高野 隆司
授業の目的・テーマ	児童や家庭を取り巻く社会情勢や福祉について学習するとともに、各種児童福祉施設の役割や機能、児童家庭福祉に関連する法制度等について理解を深める。		
授業の到達目標	子どもの権利について理解する。児童家庭福祉の様々な取り組みを理解し、児童家庭福祉に関わる専門職としての職務・役割を理解する。		
授業の計画	1	現代社会と子ども家庭福祉	26 保護者の仕事と生活の調和
	2	少子高齢化と子ども	27 新たな少子化対策
	3	家庭・地域の変化	28 児童家庭福祉の動向
	4	子ども家庭福祉の歴史	29 児童家庭福祉の展望
	5	海外における家庭福祉の歴史	30 まとめ
	6	日本における家庭福祉の歴史	31
	7	子ども家庭福祉の理念と法律 ①	32
	8	子ども家庭福祉の理念と法律 ②	33
	9	子ども家庭福祉の理念と法律 ③	34
	10	子ども家庭福祉の機関と専門職 ①	35
	11	子ども家庭福祉の機関と専門職 ②	36
	12	子ども家庭福祉の機関と専門職 ③	37
	13	児童福祉施設とは	38
	14	児童福祉施設の種類 ①	39
	15	児童福祉施設の種類 ②	40
	16	子ども家庭福祉のサービス	41
	17	虐待防止と支援	42
	18	障害のある子どもへの支援	43
	19	母子保健施策	44
	20	保育サービス ①	45
	21	保育サービス ②	46
	22	認定こども園	47
	23	認可外保育サービス	48
	24	少子化対策と子育て支援	49
	25	少子化対策の流れ	50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	子ども家庭福祉-子どもと家庭を支援する-(近大テキスト)		
評価の方法や基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、レポートの作成及び筆記試験により期末考查を実施する。</li> <li>・ 平常点(20%) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	公認心理師資格(国家資格) 社会福祉士資格(国家資格) 児童心理療育施設副施設長 児童家庭支援センター・母子生活支援施設心理療法担当職員		
実務経験の活かし方	各テーマについて講義を行ったあと、事例等を紹介し、意見交換を行いながら理解を深めていく。		
履修上の注意事項	・ 講義終了後、テキストや配布資料に再度目をとおり、発達や子育て支援をめぐる課題についてや理解を深める。		

授業科目	保育原理	単位/時間	2 / 30	
開講学科等	福祉保育学科 2年	担当教員	高野 慶子	
授業の目的・テーマ	保育の理念や役割、制度、実践を理解し、保育に関する基礎的な知識を培うことと、保育が直面している切実な課題を知ることにより、各人が課題意識を持って保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見解を持つことを目的とする。			
授業の到達目標	保育の意義や基本的な内容を理解する。			
授業の計画	1	オリエンテーション	26 (6)保育の評価	
	2	『保育』とは	27 (7)保護者との連携	
	3	1章 乳幼児の特質と保育の意義 (1)乳幼児の特質と保育の意義	28	8章 さまざまな保育と課題 (1)幼稚園と保育所の今後
	4	〃	29	(2)保育の多様化
	5	(2)乳幼児期の発達的特質	30	振り返り・まとめ
	6	〃	31	
	7	〃	32	
	8	2章 保育思想と児童観の変遷	33	
	9	〃	34	
	10	〃	35	
	11	3章 近大保育施設・制度の創設と発展	36	
	12	〃	37	
	13	4章 各国の保育	38	
	14	〃	39	
	15	5章 わが国における幼稚園・保育所の成立と変遷	40	
	16	〃	41	
	17	6章 保育の目的	42	
	18	〃	43	
	19	7章 保育の内容・方法・計画・評価 (1)保育内容の変遷	44	
	20	(2)今日の保育内容	45	
	21	(3)保育の方法形態	46	
	22	(4)保育方法の基本原則	47	
	23	〃	48	
	24	(5)保育の計画	49	
	25	〃	50	
授業の方法	講義 グループワーク			
テキスト/参考文献	「保育原理」 近畿大学九州短期大学/保育所保育指針			
評価の方法や基準	筆記試験、授業態度(出席状況を含む)、意欲、関心など			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	幼稚園・保育園で保育者として勤務			
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく			
履修上の注意事項	テキスト・筆記用具持参			

#VALUE!	社会的養護ⅡSC	単位/時間	1単位/15時間
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	雑賀 正彦
授業の目的・テーマ	虐待などにより人との信頼関係構築が難しい児童を支援するための知識・技術を習得する。また、家庭的養護と施設の小規模化、ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）について理解するとともに、社会的養護の課題と展望についての考察する。		
授業の到達目標	社会的養護の原理・原則を踏まえ、①社会的養護施設の機能と役割を説明できる。②支援計画の作成・記録・評価について理解する。③事例を通して、施設保育者の役割と意義について考察できる。④児童虐待の防止と家庭支援について説明できる。		
授業の計画	1	児童の権利擁護について	26
	2	里親制度の特性と養護の実際	27
	3	乳児院・児童養護施設等の養護を巡る状況	28
	4	ひとり親家庭の支援の実際	29
	5	情緒障害のある子どものための施設と支援	30
	6	障害児施設の療育と支援	31
	7	支援計画・評価・記録について	32
	8	社会的養護の実際について	33
	9	社会的養護の課題と展望	34
	10	まとめ	35
	11		36
	12		37
	13		38
	14		39
	15		40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義・演習（適宜、事例、新聞記事、リアクションペーパーを取り入れる）		
テキスト/参考文献	図解で分かるソーシャルワーク（中央法規出版）鈴木孝典・鈴木祐介編者		
評価の方法や基準	出欠（30％）授業態度（20％）筆記試験（50％）の総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	自治体では高齢者・介護保険・地域支援関係業務、社会福祉協議会ではケアマネジメント・地域福祉全般に従事していた。		
実務経験の活かし方	実務経験に基づく具体的事例を用いた講義・演習により理解を深める。		

履修上の 注意事項	事前学習として、新聞等で子どもに関する記事を読み、疑問点を明らかにしておく。 事後学習としては、配布資料、講義時に伝える参考文献等で学習を深める。
--------------	------------------------------------------------------------------------------

授業科目	子ども家庭支援論	単位/時間	2単位/30時間	
開講学科等	福祉保育学科 2年	担当教員	高野 隆司	
授業の目的・テーマ	保育所のもつ社会的役割について理解する。また家庭機能の変容と子どもを取り巻く環境の変化についても理解し、ニーズに応じた支援のあり方と関係機関との連携について学ぶ。			
授業の到達目標	家庭支援の意義と役割について理解し、説明できるようになること。 家庭を取り巻く社会状況を理解し、子育て支援のあり方や家庭支援の具体的方法について説明できるようになること。			
授業の計画	1	子ども家庭支援の意義と必要性 ①	26	地域の子育て家庭への支援 ①
	2	子ども家庭支援の意義と必要性 ②	27	地域の子育て家庭への支援 ②
	3	子ども家庭支援の目的と機能 ①	28	要保護児童及び家庭への支援 ①
	4	子ども家庭支援の目的と機能 ②	29	要保護児童及び家庭への支援 ②
	5	子育て支援施策について ①	30	子育て支援に関する課題と展望
	6	子育て支援施策について ②	31	
	7	子育て支援と社会資源 ①	32	
	8	子育て支援と社会資源 ②	33	
	9	保育の専門性と家庭支援 ①	34	
	10	保育の専門性と家庭支援 ②	35	
	11	子どもの育ちと喜びの共有	36	
	12	保護者と地域をめぐる子育て支援 ①	37	
	13	保護者と地域をめぐる子育て支援 ②	38	
	14	保護者と地域をめぐる子育て支援 ③	39	
	15	保育士に求められる基本的態度 ①	40	
	16	保育士に求められる基本的態度 ②	41	
	17	家庭の状況に応じた支援 ①	42	
	18	家庭の状況に応じた支援 ②	43	
	19	地域の資源と関係機関等の連携 ①	44	
	20	地域の資源と関係機関等の連携 ②	45	
	21	地域の資源と関係機関等の連携 ③	46	
	22	子ども家庭支援の内容と対策 ①	47	
	23	子ども家庭支援の内容と対策 ②	48	
	24	保育所を利用する家庭への支援 ①	49	
	25	保育所を利用する家庭への支援 ②	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	「子ども家庭支援論」 中央法規 「虐待・親にもケアを」 森田ゆり 著 築地書館			
評価の方法や基準	・ 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、レポートの作成及び筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点(20%) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	公認心理師資格(国家資格) 社会福祉士資格(国家資格) 児童心理療育施設副施設長 児童家庭支援センター・母子生活支援施設心理療法担当職員			
実務経験の活かし方	各テーマについて講義を行ったあと、事例等を紹介し、意見交換を行いながら理解を深めていく。			
履修上の注意事項	・ 講義終了後、テキストや配布資料に再度目をとおり、発達や子育て支援をめぐる課題についてや理解を深める。			

授業科目	幼児への特別な支援	単位/時間	1/15
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	市川 憲文
授業の目的・テーマ	①障害についての概要の理解をふまえて、障害児保育の理念とその方法について理解する。 ②障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題を理解するとともに、関係機関や施設などの社会資源について学び、障害のある子ども本人やその家族を支援するための連携について学ぶ。		
授業の到達目標	①障害の捉え方、障害福祉における概念についての概要を説明できる。②障害児保育や療育の意義について説明できる。③子どもの障害や特性に応じた基本的な配慮や方法について理解している。④関係機関や施設などの社会資源の基本的な役割や機能について理解している。		
授業の計画	1	オリエンテーション	26
	2	障害児保育とは	27
	3	障害とは（概要）	28
	4	障害福祉における様々な概念	29
	5	障害児保育を支える理念	30
	6	障害児保育の歴史	31
	7	障害児保育の現状と課題	32
	8	療育でのかかわりと育ち①	33
	9	療育でのかかわりと育ち②	34
	10	専門機関の種類と連携	35
	11	福祉施設の種類	36
	12	福祉施設の種類	37
	13	障害児の就学や保護者の支援①	38
	14	障害児の就学や保護者の支援②	39
	15	ふりかえり	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義とグループワーク		
テキスト/参考文献	障害児保育（ミネルヴァ出版） 適宜プリント配布		
評価の方法や基準	試験50% 授業態度（出席率を含む）50%		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	身体障害者施設の支援員 知的障害者入所更生施設の支援員 精神障害者通所授産施設（就労継続B型）のワーカー 地域活動支援センターのワーカー 共同生活援助事業所（知的GH）の支援員		
実務経験の活かし方	①障害特性や関係機関等との連携について、②これまでの障害のある方々への支援を通して、療育や障害児保育の意義や必要性について学生に伝えていきたい。		
履修上の注意事項	テキスト 筆記用具を持参のこと		

授業科目	障害児保育（スクーリング）	単位／時間	1 / 1 5
開講学科等	福祉保育学科 2 年	担当教員	市川 憲文
授業の目的 ・テーマ	①各障害についての理解をふまえ、現場での具体的な支援や保育の方法について考える ②（児童）虐待の現状と発生にいたる背景について考える		
授業の 到達目標	①各障害の理解と基本的な支援方法について理解している。 ②子どもの障害や特性に応じた基本的な配慮や方法について理解している。 ③（児童）虐待の発生する背景について理解している		
授業 の 計 画	1	障害の理解とその援助（知的障害）	26
	2	障害の理解とその援助（知的障害）	27
	3	自閉症スペクトラム障害と保育での支援	28
	4	自閉症スペクトラム障害と保育での支援	29
	5	自閉症スペクトラム障害と保育での支援	30
	6	自閉症スペクトラム障害と保育での支援	31
	7	注意欠如・多動性障害の特徴と保育での支援	32
	8	学習障害の特徴と保育での支援	33
	9	障害の理解とその援助（視覚の障害）	34
	10	障害の理解とその援助（聴覚障害）	35
	11	障害の理解とその援助（肢体不自由）	36
	12	障害の理解とその援助（重症心身障害）	37
	13	虐待について	38
	14	虐待について	39
	15	ふりかえり	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義とグループワーク		
テキスト/参考文献	障害児保育（ミネルヴァ出版） プリント資料配布		
評価の方法 や基準	試験50% 授業態度（出席率を含む）50%		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	身体障害者施設の支援員 知的障害者入所更生施設の支援員 精神障害者通所授産施設（就労継続B型）のワーカー 地域活動支援センターのワーカー 共同生活援助事業所（知的GH）の支援員		
実務経験の活かし方	①障害特性や関係機関等との連携について、②これまでの障害のある方々への支援を通して、療育や障害児保育の意義や必要性について学生に伝えていきたい。		
履修上の 注意事項	テキスト 筆記用具を持参のこと		

授業科目	子どもの食と栄養	単位/時間	1単位 / 15時間	
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	大坪 豊寿	
授業の目的・テーマ	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの成長段階における食生活について理解する。 3. 習得した理論を演習を通して実践に結びつけられるようにする。			
授業の到達目標	1. 子どもの年齢や発達段階に応じた健康的な食生活を具体的に提案できる。 2. 妊娠期からの食生活が生涯の基礎になることを理解し実践できる。 3. 子どもに関わる現場において、授業で学んだことを表現できる。			
授業の計画	1	小児期の栄養と食生活の意義	26	
	2	小児の発育・発達と栄養・食生活	27	
	3	〃	28	
	4	栄養・食生活の基礎知識	29	
	5	〃	30	
	6	消化・吸収 エネルギー代謝	33	
	7	食事摂取基準	34	
	8	妊娠・授乳期の栄養と食生活	35	
	9	乳児期の栄養と食生活	36	
	10	〃	37	
	11	幼児期の栄養と食生活	38	
	12	〃	39	
	13	学童期・思春期の栄養と食生活	40	
	14	特別な配慮を要する子どもの栄養と食生活	41	
	15	児童福祉施設における食生活	42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
	授業の方法	講義、演習(食育媒体作成・発表 調理実習)		
	テキスト/参考文献	『子どもの食と栄養』堤ちはる・土井正子(萌文書林)		
評価の方法や基準	筆記試験(60点以上)。授業・演習(受講態度と成果物、発表スキル。対象児・者が正しく理解できることを評価基準とする。)			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	病院・大学・専門学校(看護・リハビリテーション)・教育委員会・市町村の育児相談で乳児から思春期までの食生活や栄養、病態栄養について相談や指導、啓発活動を行っている。			
実務経験の活かし方	育児相談で得た情報・日本スポーツ協会公認栄養士として活動している食事調査から得た食生活の問題点を生かし、望ましい食生活について講義や演習に反映していく。			
履修上の注意事項	配布資料をファイルすること。			

授業科目	子どもの食と栄養SC	単位／時間	1単位 / 15時間
開講学科等	保育福祉学科2年	担当教員	大坪 豊寿
授業の目的・テーマ	保育者として、小児に適切な食事環境を整え、心身の発達に応じて必要な食事が提供できるように、各時期の特性や栄養について理解し、調理の技能の習得を目指す。		
授業の到達目標	小児の発達・発育の特性を踏まえ、栄養の基本的な知識を身に付け、小児期の心身の発達に応じた栄養法や、食生活、保育所給食、児童施設給食や食育の重要性を身に付ける。		
授業の計画	1	乳児期の乳汁栄養について	26
	2	衛生管理	27
	3	調乳実習	28
	4	〃	29
	5	離乳食の意義と必要性について	30
	6	演習①	31
	7	〃	32
	8	幼児期の栄養について	33
	9	幼児期の食事のバランスについて	34
	10	幼児期の間食の必要性について	35
	11	偏食等、食の問題点への対応方法	36
	12	演習②	37
	13	〃	38
	14	食育媒体作成	39
	15	幼児の食育授業案、発表	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義、実習、演習(調理実習、食育媒体作成・発表 )		
テキスト/参考文献	『子どもの食と栄養』堤ちはる・土井正子(萌文書林) 新保育ライブラリ『子どもの食と栄養』二見大介・高野 陽(北大路書房)		
評価の方法や基準	レポート提出、実習レポート、課題レポートで評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	病院・大学・専門学校(看護・リハビリテーション)・教育委員会・市町村の育児相談で乳児から思春期までの食生活や栄養、病態栄養について相談や指導、啓発活動を行っている。		
実務経験の活かし方	育児相談で得た情報・日本スポーツ協会公認栄養士として活動している食事調査から得た食生活の問題点を生かし、望ましい食生活について講義や演習に反映していく。		
履修上の注意事項	配布資料をファイルすること。		

授業科目	子育て支援SC	単位/時間	1単位15時間
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	雑賀 正彦
授業の目的・テーマ	事例学習により、子育て支援・社会福祉援助活動について具体的に理解してもらう。そのうえで、援助プロセスで必要とされる知識・技術を習得してもらう。		
授業の到達目標	将来において必要とされる子育て支援・相談援助活動（社会福祉援助技術）の基礎を習得し、援助展開における援助関係形成・援助過程や技術を効果的に活用するための理論と方法を身に付けることを目標とする。		
授業の計画	1	子どもを巡る社会状況（1）	26
	2	子どもを巡る社会状況（2）	27
	3	子育て支援と行政	28
	4	子育て支援と地域社会	29
	5	子ども・保護者と保育士	30
	6	関係機関・専門職などとの連携・協働	31
	7	社会資源の活用方法	32
	8	社会福祉援助技術（事例研究①）	33
	9	社会福祉援助技術（事例研究②）	34
	10	まとめ	35
	11		36
	12		37
	13		38
	14		39
	15		40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義・演習（適宜、DVD・新聞記事、リアクションペーパーを取り入れる）		
テキスト/参考文献	鬼崎信好編『コメディカルのための社会福祉概論』（第4版）講談社 2018年 社会福祉養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法①』中央法規 2018年 社会福祉養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法②』中央法規 2018年		
評価の方法や基準	出欠（30%）授業態度（20%）筆記試験（50%）の総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	自治体では高齢者・介護保険・地域支援関係業務、社会福祉協議会ではケアマネジメント・地域支援・法人後見業務、老人保健施設では相談支援業務全般		
実務経験の活かし方	実務経験に基づく具体的事例を用いた講義・演習により理解を深める。		

履修上の 注意事項	事前学習として、新聞等で子どもに関する記事を読み、疑問点を明らかにしておく。 事後学習としては、配布資料、講義時に伝える参考文献等で学習を深める。
--------------	------------------------------------------------------------------------------

授業科目	子どもの保健	単位/時間	2 / 30
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	畠中 ゆかり
授業の目的・テーマ	子どもの特徴は、絶えず成長・発達していること。その内容をきちんと理解でき、子ども達を観察し、見守ることができ、自分が保育士になった時何が出来るか具体的に実行でき、自覚と責任を持った保育者を養成していく。		
授業の到達目標	子どもの保健に関する基本的知識や理論について理解し、子どもにおこりやすい疾病や事故について学び保育者としての対応に繋がることを到達目標とする。		
授業の計画	1	小児保健の基本	26 安全と事故対策
	2	〃	27 〃
	3	〃	28 課題・レポート
	4	小児の発育	29 〃
	5	〃	30 まとめ
	6	〃	31
	7	〃	32
	8	〃	33
	9	小児の生理機能	34
	10	〃	35
	11	〃	36
	12	小児の運動機能	37
	13	〃	38
	14	〃	39
	15	〃	40
	16	小児の精神機能	41
	17	〃	42
	18	先天異常	43
	19	〃	44
	20	〃	45
	21	家庭看護	46
	22	〃	47
	23	〃	48
	24	予防接種	49
	25	〃	50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	よくわかるこどもの保健（ミネルヴァ書房）、わかりやすい子どもの保健（同文書院）		
評価の方法や基準	出席、授業態度、レポート、筆記試験		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	総合病院にて助産師として勤務		
実務経験の活かし方	命を大切にする姿勢、助産師としての経験を授業の中に取り入れる。		
履修上の注意事項	授業態度を重視します。		

授業科目	子ども家庭支援の心理学	単位／時間	2単位／30時間	
開講学科等	福祉保育学科 2年	担当教員	高野 隆司	
授業の目的・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の生涯発達及び、乳幼児期の初期経験の重要性を理解する。</li> <li>・子どもの精神保健と現状及び、子ども家庭福祉に要する心理学的知識や家庭の意義と機能・子育てを取り巻く社会状況を理解する。</li> </ul>			
授業の到達目標	1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解できる。2) 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。			
授業の計画	1	生涯発達	26	トラウマとメンタルケア
	2	乳幼児期から学童前期にかけての発達①	27	子どもの生活環境とその影響
	3	乳幼児期から学童前期にかけての発達②	28	子どもの生育環境とその影響
	4	乳幼児期から学童前期にかけての発達③	29	子どものこころと健康
	5	乳幼児期から学童前期にかけての発達④	30	子どもと発達障害
	6	乳幼児期から学童前期にかけての発達⑤	31	
	7	学童後期から青年期にかけての発達①	32	
	8	学童後期から青年期にかけての発達②	33	
	9	学童後期から青年期にかけての発達③	34	
	10	成人期・老年期における発達①	35	
	11	成人期・老年期における発達②	36	
	12	成人期・老年期における発達③	37	
	13	家族・家庭の意義と機能①	38	
	14	家族・家庭の意義と機能②	39	
	15	家庭関係・親子関係の理解①	40	
	16	家庭関係・親子関係の理解②	41	
	17	子育てについての意識	42	
	18	子育て支援の状況	43	
	19	子育てをめぐる社会的状況①	44	
	20	子育てをめぐる社会的状況②	45	
	21	ライフコースの変化と特徴	46	
	22	保護者のライフコースと子育て	47	
	23	子どもと家庭を取り巻く様々な課題①	48	
	24	子どもと家庭を取り巻く様々な課題②	49	
	25	家庭におけるメンタルケア	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	新基本保育シリーズ9 「子ども家庭支援の心理学」 中央法規			
評価の方法や基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、レポートの作成及び筆記試験により期末考查を実施する。</li> <li>・平常点(20%) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	公認心理師資格(国家資格) 社会福祉士資格(国家資格) 児童心理療育施設副施設長 児童家庭支援センター・母子生活支援施設心理療法担当職員			
実務経験の活かし方	各テーマについて講義を行ったあと、事例等を紹介し、意見交換を行いながら理解を深めていく。			
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義終了後、テキストや配布資料に再度目をとおり、発達や子育て支援をめぐる課題についてや理解を深める。</li> </ul>			

授業科目	教育相談	単位／時間	2 / 30
開講学科等	子ども未来学科2年	担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	乳幼児・児童は、一生の中でも、もっとも急速に成長発達をする時期にある。この時期は、子どもだけでなくその保護者にとってもストレスを感じながらの生活となる。それに加えて急激な社会や環境の変化が子ども達に及ぼす影響は相当なものだと想像される。この大人と子ども両者の精神的負担に対して以前は同居する年寄りや地域が与えていた「安らぎ」を、現代では教育現場にも求められるようになってきた。つまり、教育現場の教師達は多くの課題を抱えながら子どもや保護者達のために「安らぎ」の機能を発揮できるかについて学習する。		
授業の到達目標	テーマを習得すること		
授業の計画	1	よりよい子育て支援のためにひつようなことは	26 〃
	2	子育て支援に生かすカウンセリングの理論	27 保護者として自分と向き合う
	3	〃	28 〃
	4	〃	29 学習の振り返り
	5	〃	30 振り返りと確認
	6	子育て支援に生かすカウンセリングの技法	31
	7	〃	32
	8	〃	33
	9	日常の保護者とのかかわり方	34
	10	〃	35
	11	〃	36
	12	養育困難をかかえる保護者への支援	37
	13	〃	38
	14	〃	39
	15	障害のある子どもをもつ保護者への支援	40
	16	〃	41
	17	精神疾患の疑いのある保護者の理解と対応	42
	18	〃	43
	19	親としての成長を支える	44
	20	〃	45
	21	〃	46
	22	子育て支援に生かす構成的グループエンカウンター	47
	23	〃	48
	24	〃	49
	25	親の回へのサポートの実際	50
授業の方法	講義とロールプレイ		
テキスト/参考文献	子育て支援カウンセリング 幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート 図書文化 新聞記事		
評価の方法や基準	定期考査の得点・ロールプレイの実技評価・授業課題の提出物・学習姿勢		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	幼稚園教諭。幼児・小学生・中学生における発達障害・不登校および非行児童生徒・保護者へのカウンセリング、学習指導。		
実務経験の活かし方	幼児教育現場教員経験から考えるカウンセリング手法や、これまで相談を受けていたカウンセリングの内容をもとに学生に下す。		

履修上の 注意事項	
--------------	--

授業科目	図画工作Ⅱ（授業45時間）		単位／時間	1 / 4 5
開講学科等	福祉保育学科 2年		担当教員	松田 雅子
授業の目的・テーマ	2年生では、「何もないところから互いに話し合っ協力し、一つのを創り上げる」共同制作を通じて、さらにコミュニケーション能力を育む。また、実際の現場で様々な作品に触れることで幅広い鑑賞能力を培う。			
授業の到達目標	あらゆるジャンルに伸びてゆこうとする、こどもの芽をのびのびと伸ばすことのできる、幅広い視野を持った教育者、仲間と共に連携して子ども達を見守って行けるコミュニケーション力を育てることを到達目標にしたい。			
授業の計画	1	■音楽を聴いて、イメージを表現しよう。	26	一から自分たちで話し合っ
	2	・1年で習得した様々な表現技法を用いて	27	ひとつの作品を完成させる
	3	イメージを具現化してゆく。	28	(例1) パネルを横にして、全て針金で
	4	幼児の持つ形のない表現世界の理解に繋げる	29	巨大遊園地を作る
	5	■ことばが持つ、イメージを表現しよう。	30	(例2) パネルを縦にして、色紙ちぎり絵で、
	6	・1年で習得した様々な表現技法を用いて	31	巨大イラストを完成させるなど
	7	イメージを具現化してゆく。	32	■紙粘土でオリジナルキャラクター制作
	8	幼児の持つ形のない表現世界の理解に繋げる	33	〃
	9	■合評会	34	公園に行き、撮影。背景シチュエーションを
	10	■作品鑑賞	35	考える。
	11	・校外学習（高知市文化プラザかるぽーと）	36	(例1) イチョウの落ち葉の中のイチョウ君
	12	〃	37	■季節を知ろう！カレンダー制作
	13	ふくちゃん館 横山隆一記念まんが館	38	・カレンダーから好きな季節を選ぶ
	14	昔の子ども達の遊びを体験しよう	39	・その季節のイメージで、黒い用紙に
	15	鑑賞希望。	40	折り紙をちぎって季節を表現する。
	16	■絵手紙を描いてみよう	41	■実習造形報告
	17	・野菜や果物を墨汁を筆を使って	42	・実習先で体験・制作、目にした造形作品を
	18	土佐和紙に描いてもらう。	43	クラス全員の前で報告、発表、
	19	※実際の保育現場では、園で育てたお芋を	44	その制作方法を学び合う。
	20	収穫した後、ふかして食べ、その後絵を描	45	■振り返り
	21	くなど生きた教育を行っているところも。	46	
	22	■共同制作	47	
	23	真っ白いB1 パネルを使用	48	
	24	・横にして造形作品にしても	49	
	25	・縦にして絵画作品にしても自由	50	
授業の方法	単に制作するだけでなく、発表の場を作って、コミュニケーション能力を育てる。			
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学 図画工作 保育科資料 モーネ工房 こども寺子屋			
評価の方法や基準	創作の意欲、発想、態度、理論の理解、将来こどもと接する時のコミュニケーション能力。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	児童心理治療施設、こどもお絵描き教室を含む芸術指導歴30余年。新技法習得のため、ワークショップにも積極的に参加。執筆、音楽、映像、食育など、ジャンルにこだわらない様々な表現活動を展開中。			
実務経験の活かし方	実務経験におけるネットワーク作りを大切にし、こども達の心を育むものづくりの楽しさ、感動が、将来の指導者を通じてこども達に少しでも伝わるよう、アイデアを活かしている。			
履修上の注意事項	食・睡眠時間の確保。生活の改善。			

授業科目	幼児体育Ⅱ	単位/時間	1 / 15
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	神家 美穂
授業の目的・テーマ	乳幼児期の運動発達を具体的に捉え、幼児期の「基本的運動」を中心とした運動経験の重要性について理解を深める。さらに運動遊びの特性とその展開について学習し、効果的な保育技術、教材づくりに関する知識の習得を目指す。		
授業の到達目標	幼児体育における効果的な保育技術、教材づくりに関する地域スポーツと知識の習得を目指す。		
授業の計画	1	オリエンテーション 身体教育	26
	2	身体運動による教育	27
	3	運動の教育	28
	4	必要としての運動	29
	5	欲求としての運動	30
	6	運動発達をどうとらえるか	31
	7	新生児と乳児の運動発達	32
	8	基本的運動の段階	33
	9	物を操作する運動	34
	10	幼児の体力と大人の体力の違い	35
	11	子どものスポーツとその指導	36
	12	教育課程・保育の計画と指導計画	37
	13	指導計画（前提の確認）	38
	14	指導計画（目的・内容・方法の確認）	39
	15	運動遊びの特性とその展開	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	幼児体育Ⅱ（近畿大学九州短期大学通信教育学部編集）保育と幼児期の運動あそび（萌文書林）		
評価の方法や基準	レポート、筆記試験、出席率		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する。	○		
実務経験	非常勤体育講師（保育園・認定こども園）		
実務経験の活かし方	園で実践している体育・運動遊びの事例を講義の中で取り上げることによって、幼児の体育指導実践の具体的なイメージづくりにつなげる。		
履修上の注意事項	テキスト必携		



授業科目	保育実習事前事後指導 I (保育所)		単位/時間	1 単位/ 1 5 時間
開講学科等	福祉保育学科 2 年		担当教員	徳弘 美穂
授業の目的・テーマ	保育所における保育の基本を理解し、理論と実践が結びつくような実習を目指す。			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の全体的な流れを理解し、実習に臨む心構えをする。</li> <li>・実習日誌の書き方や指導案の立案の仕方などを知る。</li> <li>・実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</li> </ul>			
授業の計画	1	保育実習の全体の流れと諸注意	26	
	2	保育所実習の意義・目的・内容について	27	
	3	↓	28	
	4	↓	29	
	5	保育所の 1 日の流れ	30	
	6	↓	31	
	7	↓	32	
	8	↓	33	
	9	↓	34	
	10	指導案の立案について	35	
	11	↓	36	
	12	↓	37	
	13	↓	38	
	14	↓	39	
	15	まとめ	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	「知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド」			
評価の方法や基準	授業への積極的な態度・課題等の提出による。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	保育所で保育士として勤務。			
実務経験の活かし方	保育現場での子どもの発達・あそびや保育の様子などを、分かりやすく事例に出しながら伝える。			
履修上の注意事項	事前学習をしておくこと。			

授業科目	レッスンⅡ	単位/時間	2単位/60時間	
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	高野 慶子	
授業の目的・テーマ	音楽 [ピアノ] ②の指導を受け、音楽表現技術 (SC) グレード試験に向けてレッスンを 行う。また、実習で使用する曲等の弾き歌いの技術習得に向けたレッスンも行う。			
授業の到達目標	音楽表現技術 (SC) の受験資格を得る。			
授業の計画	1	目標の設定 (スクーリングに向けて)	26	
	2	音楽ピアノ教本2年生課程における	27	
	3	課題曲を、全曲マスターできるように	28	
	4	↓ 計画を立てる。	29	↓ 進捗状況の確認・目標の見直し
	5	目標の確認①	30	目標の確認④
	6		31	修了者は、個別に実習において使用できる曲
	7		32	選曲し、レパートリーを増やしていく
	8		33	
	9		34	
	10		35	
	11		36	
	12	↓ 進捗状況の確認・目標の見直し	37	
	13	目標の確認②	38	↓ 進捗状況の確認・目標の見直し
	14		39	目標の確認⑤
	15		40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20	↓ 進捗状況の確認・目標の見直し	45	
	21	目標の確認③	46	↓ 進捗状況の確認・目標の見直し
	22		47	目標の確認⑥
	23		48	
	24		49	
	25	↓	50	↓
授業の方法	個人レッスン、各自レッスン			
テキスト/参考文献	『音楽 ピアノ教本』近畿大学九州短期大学			
評価の方法 や基準	出欠状況・授業態度・進捗状況			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	保育園・幼稚園・認定こども園勤務			
実務経験の活かし方	幼稚園現場での経験を活かし、実践に向けてのスキルアップにつながるよう個別レッスンを行う。			

履修上の  
注意事項

テキスト、ヘッドフォンを持参。授業以外にも各自での練習に励むこと。

授業科目	レッスンⅡ	単位/時間	2単位/60時間
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	高野 慶子
授業の目的・テーマ	音楽 [ピアノ] ②の指導を受け、音楽表現技術 (SC) グレード試験に向けてレッスンを行う。また、実習で使用する曲等の弾き歌いの技術習得に向けたレッスンも行う。		
授業の到達目標	音楽表現技術 (SC) の受験資格を得る。		
授業の計画	51		76
	52		77
	53		78
	54		79
	55	↓ 進捗状況の確認	80
	56	目標の確認⑦	81
	57	スクーリングに向けて振り返り練習	82
	58	↓	83
	59	↓	84
	60	反省と今後の課題	85
	61		86
	62		87
	63		88
	64		89
	65		90
	66		91
	67		92
	68		93
	69		94
	70		95
71		96	
72		97	
73		98	
74		99	
75		##	
授業の方法	個人レッスン、各自レッスン		
テキスト/参考文献	『音楽 ピアノ教本』近畿大学九州短期大学		
評価の方法や基準	出欠状況・授業態度・進捗状況		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	保育園・幼稚園・認定こども園勤務		
実務経験の活かし方	幼稚園現場での経験を活かし、実践に向けてのスキルアップにつながるよう個別レッスンを行う。		
履修上の注意事項	テキスト、ヘッドフォンを持参。授業以外にも各自での練習に励むこと。		

授業科目	音楽 [ピアノ] ②	単位/時間	1 単位/30 時間
開講学科等	福祉保育学科 2 年	担当教員	北川 弘子
授業の目的・テーマ	保育者・教育者として必要な基礎的なピアノ演奏技術を習得する。また幼児と音楽表現技術のスクーリングが受講でき、試験曲が合格できることを目標とする。		
授業の到達目標	音楽表現技術のスクーリングを受講し、試験曲が合格できることを目標とする。		
授業の計画	1	おはながわらった・先生とおともだち	26 線路は続くよどこまでも
	2	こどりのうた	27 せっけんさん・幸せなら手をたたこう
	3	こいのぼり、めだかの学校	28 ふしぎなポケット・おもちゃのマーチ
	4	とけいのうた	29 おもちゃのチャチャチャ・ともだち賛歌
	5	あめふりくまのこ	30 まとめ
	6	たなばたさま・うみ・つき	31
	7	おぼけなんてないさ	32
	8	とんぼのめがね・山の音楽家	33
	9	どんぐりころころ・たき火	34
	10	あわてんぼうのサンタクロース	35
	11	きよしこの夜・豆まき・雪のペンキ屋さん	36
	12	うれしいひなまつり	37
	13	思い出のアルバム	38
	14	一年生になったら	39
	15	おべんとう・おはなし	40
	16	おかえりのうた・ハッピーバースデー	41
	17	アイアイ	42
	18	ありさんのおはなし	43
	19	犬のおまわりさん	44
	20	おうま・おつかいありさん	45
	21	おんまはみんな	46
	22	かわいいかくれんぼ	47
	23	ぞうさん・かもつれっしや	48
	24	森のくまさん・やぎさんゆうびん	49
	25	バスごっこ	50
授業の方法	全体レッスン、個人レッスン		
テキスト/参考文献	『音楽』		
評価の方法や基準	出欠席(20%) 授業態度(10%) 試験(70%)の総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	幼稚園教諭・音楽教室		
実務経験の活かし方	個別レッスンを行う		
履修上の注意事項	テキスト、ヘッドフォン、筆記用具を持参。授業以外にも各自での練習に励むこと。		

授業科目	音楽[声楽]②	単位/時間	1 / 30	
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	北川 弘子	
授業の目的 ・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱技術の習得と共に、きれいな日本語で歌い表現をする</li> <li>・幼児教育現場で必要な幼児歌曲のレパートリーを広げる</li> </ul>			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い分野の幼児歌曲が歌える</li> <li>・近畿大学音楽スクーリング グレードⅢまで合格</li> </ul>			
授業の計画	1	<前期 14回通して>	26	
	2	* 基本的な歌唱法	27	
	3	* 「コンコーネNo.5」 講義とレッスン	28	
	4	* 「コールユーブンゲンNo.18～28」 講義とレッスン	29	
	5	* 「ピアノ教本」 子どもの歌を歌う	30	後期末試験
	6	* 個人レッスン	31	
	7	* その他の童謡歌唱・子どものうた歌唱	32	
	8		33	
	9		34	
	10		35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14	↓	39	
	15	前期末試験	40	
	16	夏休み課題の発表	41	
	17	<後期 13回通して>	42	
	18	* 「コンコーネNo.5」 講義とレッスン	43	
	19	* 「コールユーブンゲンNo.32～40」 講義とレッスン	44	
	20	* 「ピアノ教本」 子どもの歌を歌う	45	
	21	* その他の童謡歌唱・子どものうた歌唱	46	
	22	* 個人レッスン	47	
	23	* スクーリング試験対策	48	
	24		49	
	25	↓	50	
授業の方法	毎回、キーボード使用しての講義とレッスン（個人レッスン含）			
テキスト/参考文献	配布プリント、近畿大学・九州短期大学 声楽教本、器楽教本			
評価の方法 や基準	歌唱実技試験、出席率、授業態度など			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	・幼稚園教諭 ・音楽教室			
実務経験の活かし方	・ゼロスタートからの学生にも、わかりやすく歌唱法を指導する ・歌うことを通して”音楽の楽しさ”を伝えると共に、練習を重ねれば”出来る”ことを感じてもらう			
履修上の注意事項	・地道な読譜練習と発声練習を行うこと ・歌は”歌う”ことであって、口ずさむことではないことを心掛け、保育士としての自覚を持ちながら臨むこと			

授業科目	保育研究Ⅱ		単位/時間	2 / 60
開講学科等	福祉保育学科2年		担当教員	徳弘 美穂
授業の目的・テーマ	乳幼児期の成長発達や生活に即した「遊び」と「活動」の体験実践を通し、保育現場に生かせる知識や技術、豊かな感性を身に付ける。			
授業の到達目標	保育現場で生かせる知識や技術の習得			
授業の計画	1	オリエンテーション	26	
	2	保育実習に向けて	27	
	3	手遊び・集団遊び・製作等	28	作品発表
	4	自己紹介カードの製作	29	〃
	5		30	〃
	6		31	
	7		32	
	8		33	
	9		34	
	10		35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14		39	
	15	↓	40	
	16	パネルシアター製作	41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23	↓	48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義、実技			
テキスト/参考文献	なし			
評価の方法や基準	出席状況、授業態度、作品発表、作品提出			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園・保育園で保育者として勤務			
実務経験の活かし方	保育現場での「遊びや」「活動」を通して培った技術や技法を授業の中で伝えていく			
履修上の注意事項	なし			

授業科目	保育研究Ⅱ		単位/時間	2 / 60
開講学科等	福祉保育学科2年		担当教員	高野 慶子
授業の目的・テーマ	乳幼児期の成長発達や生活に即した「遊び」と「活動」の体験実践を通し、保育現場に生かせる知識や技術、豊かな感性を身に付ける。			
授業の到達目標	保育現場で生かせる知識や技術の習得			
授業の計画	1	オリエンテーション	26	指導案の準備
	2	保育園・幼稚園・認定こども園での遊びについて考える	27	指導案発表
	3	各自、実習に向けての出し物を考える	28	〃
	4	出し物に必要な準備物の書き出し	29	指導案修正・提出
	5	個々で製作	30	授業の振り返り
	6		31	
	7		32	
	8		33	
	9		34	
	10		35	
	11		36	
	12	↓	37	
	13	作品発表	38	
	14	〃	39	
	15	作品発表振り返り	40	
	16	各自、作品の修正や手直し	41	
	17	〃	42	
	18	再発表	43	
	19	再発表・評価	44	
	20	指導案作成	45	
	21	・年齢に応じた製作を考える	46	
	22	指導案の準備	47	
	23	・製作に必要な道具や数の準備	48	
	24	〃	49	
	25	〃	50	
授業の方法	講義、実技			
テキスト/参考文献	なし			
評価の方法や基準	出席状況、授業態度、作品発表、作品提出			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園・(認定こども園)保育園で勤務			
実務経験の活かし方	保育現場での「遊びや」「活動」を通して培った技術や技法を授業の中で伝えていく			
履修上の注意事項	手づくりをする時の道具類を忘れずに持ってくる			

授業科目	実習指導Ⅱ		単位/時間	2単位/30時間
開講学科等	福祉保育学科2年		担当教員	徳弘 美穂
授業の目的・テーマ	実習を円滑に行うために必要な事柄を学習する。具体的には保育所の全体的な枠組みを理解し、実習にのぞむ心構えを作るとともに、保育の技術、能力を培っていくとともに、実習日誌の書き方や表現の仕方などの知識を高めていくことを目的とする。			
授業の到達目標	実習マナーや日誌の書き方などを身に付け、初めての实習にスムーズに実習が行えることを目標とする。			
授業の計画	1	実習の意義・目的・内容について	26	保育実習Ⅰ② 施設実習に向けて
	2	保育実習Ⅰ①保育実習に向けて	27	施設とは、
	3	保育所とは	28	施設の特徴、職務について
	4	保育実習の全体の流れと諸注意	29	観察実習について
	5	実習の内容・実習の4段階	30	↓
	6	乳児・幼児の発達段階	31	
	7	保育所の一日に流れとデイリープログラムの	32	
	8	実習日誌の書き方	33	
	9	設定保育・指導計画案の立て方	34	
	10	実習への準備	35	
	11	調査票、健康診断（蛭虫検査）	36	
	12	オリエンテーション依頼（電話）⇒訪問	37	
	13	オリエンテーションでの確認	38	
	14	教材等の準備、楽譜準備等	39	
	15	★児童相談所見学実習に向けて①	40	
	16	★児童相談所見学実習に向けて②	41	
	17	保育所実習を終えて	42	
	18	お礼状の作成	43	
	19	実習を振り返って（感想・反省）	44	
	20	成果発表	45	
	21	信頼される実習生・避けられる実習生	信 頼	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド』			
評価の方法や基準	出欠席（30%） 授業態度（20%） 試験（50%）の総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	保育園・幼稚園勤務			
実務経験の活かし方	保育現場で経験してきたことを活かし、子どもたちとのかかわり方や保護者とのかかわり方、日誌の記入方法等の具体的説明を踏まえながら進めていく。			

履修上の  
注意事項

授業以外でも実習に向けての準備を各自行うこと

授業科目	保育総論	単位/時間	4単位/60時間
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	鎌倉 奈緒美
授業の目的・テーマ	保育所及び幼保連携型認定こども園における保育の基本、内容などを理解し、保育現場の現状を踏まえた保育理論を習得する。また、自身の子ども観・保育観をみつめ保育者としてどうあるべきか考え行動できるようにする。		
授業の到達目標	保育の基本的な内容を理解し、保育者に対する興味・関心を深める。		
	1	オリエンテーション	31 振り返り
	2	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園	32 第3章 健康及び安全
	3	教育・保育要領 改定・改訂の趣旨	33
	4	↓	34
	5	第1章 総則	35
	6		36
	7		37 第4章 子育て支援
	8		38
	9		39
	10		40
	11		41
	12		42 第5章 職員の資質向上
	13		43
	14		44
	15	第2章 保育の内容	45
	16		46
	17		47
	18		48 子ども観・保育観について
	19		49
	20		50
	21		51
	22		52
	23		53
	24		54
	25	第3章 健康及び安全	55 保育者として求められる姿とは
	26		56
	27		57
	28		58
	29		59
	30	まとめ	60 まとめ
授業の方法	講義、グループワーク		
テキスト/参考文献	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
評価の方法や基準	出席率、授業態度、筆記試験による		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	幼稚園教諭		
実務経験の活かし方	保育の基本を伝えながら、保育者として実践、経験を授業で伝え関心が深まるようにしていく。		
履修上の注意事項	授業では受け身だけでなく、積極的な態度で受講すること。		

授業科目	パソコン実習 I	単位/時間	1/30時間	
開講学科等	福祉保育学科 2年	担当教員	吉井 多絵	
授業の目的・テーマ	ビジネスの場で求められるWord、Excel、PowerPointの操作、ビジネスメールについて学ぶ。 パソコンの便利な使い方とともに基本的なビジネスマナーについても学ぶ。			
授業の到達目標	ビジネスの場でパソコンをツールとして使いこなせるようになる。			
授業の計画	1	ガイダンス	26	【PowerPoint】プレゼンテーション作成
	2	PC基礎知識、基本操作	27	【PowerPoint】プレゼンテーション作成
	3	【Windows】効率的な文字入力	28	【PowerPoint】スライドショー機能
	4	【Windows】便利な機能	29	【PowerPoint】アニメーション機能
	5	【ビジネスメール】メール確認	30	【PowerPoint】印刷、発表者ビュー
	6	【ビジネスメール】マナーとルール	31	
	7	【ビジネスメール】初級	32	
	8	【ビジネスメール】初級	33	
	9	【ビジネスメール】応用	34	
	10	【ビジネスメール】応用	35	
	11	【Word】ビジネス文書作成	36	
	12	【Word】ビジネス文書作成	37	
	13	【Word】ビジネス文書作成 一線と表	38	
	14	【Word】ビジネス文書作成 一線と表	39	
	15	【Word】PDF変換とメール添付	40	
	16	【Word】画像加工とおたより作成	41	
	17	【Word】画像加工とおたより作成	42	
	18	【Word】画像加工とおたより作成	43	
	19	【Word】画像加工とおたより作成	44	
	20	【Excel】基本操作	45	
	21	【Excel】基本操作	46	
	22	【Excel】数式、関数①	47	
	23	【Excel】表作成	48	
	24	【Excel】関数②	49	
	25	【PowerPoint】基本操作	50	
授業の方法	パソコンを使用した実習			
テキスト/参考文献	よくわかるWord2019& Excel2019& PowerPoint2019 (FOM出版)			
評価の方法や基準	提出課題、授業態度、出席率			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	パソコン教室、職業訓練校、専門学校、一般企業、官公庁、医療機関等にてパソコン講師。			
実務経験の活かし方	様々な業種や多分野での講師経験を活かし、実社会で求められるスキルをレクチャーします。			

履修上の  
注意事項

テキスト・筆記用具持参、メールアドレス準備 (※パスワード確認のこと)

授業科目	介護技術入門	単位/時間	1 / 15
開講学科等	福祉保育学科 2年	担当教員	和田 恵
授業の目的・テーマ	高齢社会を迎え、介護の必要性はますます高まっている。高齢者の身体的、精神的特徴の技術、人の身体を動かすにはどのような方法で行うのかといった、介護の基本的な技術を学ぶことを目的とする。		
授業の到達目標	1、高齢者の特徴を知る 2、介護技術（移送・更衣・清潔・観察）を行うことができる。 3、介護の現場を知る・		
授業の計画	1	老いとは何か？	26
	2	高齢者の心身の特徴	27
	3	高齢者の観察	28
	4	ベッドメイキングの方法	29
	5	体位交換	30
	6	同上	31
	7	車いすの移乗方法	32
	8	同上	33
	9	更衣の方法	34
	10	手浴・足浴の方法	35
	11	食事の介助について	36
	12	レクリエーションとは	37
	13	介護サービスの現場について	38
	14	同上	39
	15	試験	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義・演習		
テキスト/参考文献	プリント配布 ステキに家庭介護入門 介護技術講習テキスト		
評価の方法や基準	筆記試験・授業態度		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	看護師		
実務経験の活かし方	看護教育学(修士課程) で学んだ知識、看護の実際での経験を具体化に示し講義する。		
履修上の注意事項	演習時は動きやすい服装で、神はまとめる。上履きを用意すること。		

授業科目	障害者福祉	単位/時間	2単位/30時間
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	市川 憲文
授業の目的・テーマ	障がい者の生活環境等を理解し、生活環境や障がい者のニーズに応じた障害福祉サービスを使った障がい者への支援の方法を理解する。		
授業の到達目標	障害福祉の制度を知り、ソーシャルワーカーとして障がい者に対して、適切な制度を利用して、障がい者への支援体制を構築できるようにする。		
授業の計画	1	障害者の定義と特性①	26 関連する専門職の役割
	2	障害者の定義と特性②	27 障害領域におけるソーシャルワーカーの役割①
	3	国際生活機能分類と障害の社会モデル	28 障害領域におけるソーシャルワーカーの役割②
	4	障害観の変遷	29 障害者と家族等に対する支援の実際①
	5	障害者福祉の理念①	30 障害者と家族等に対する支援の実際②
	6	障害者福祉の理念②	31
	7	障害者福祉の歴史①	32
	8	障害者福祉の歴史②	33
	9	障害者の生活実態①	34
	10	障害者の生活実態②	35
	11	障害者と家族①	36
	12	障害者と家族②	37
	13	障害者を取り巻く社会環境と課題①	38
	14	障害者を取り巻く社会環境と課題②	39
	15	障害者に対する法制度①	40
	16	障害者に対する法制度②	41
	17	障害者に対する法制度③	42
	18	障害者に対する法制度④	43
	19	障害者に対する法制度⑤	44
	20	障害者に対する法制度⑥	45
	21	障害者に対する法制度⑦	46
	22	障害者に対する法制度⑧	47
	23	障害者と家族等の支援における関係機関の役割①	48
	24	障害者と家族等の支援における関係機関の役割②	49
	25	関連する専門職の役割	50
授業の方法	講義 個人ワーク グループワーク		
テキスト/参考文献	障害者福祉（中央法規）		
評価の方法や基準	テスト50% 授業態度50%		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	社会福祉士および精神保健福祉士を取得後、精神障害者通所施設および地域活動支援センターにてワーカーとして従事する（H20.7～H26.8）		
実務経験の活かし方	実際に支援したケースを引用しつつ、障害福祉の理念、法律・制度、多職種連携についての学びを軸に、社会資源も活用した障害者支援（ソーシャルワーク）の実践についても言及していきたい。		

履修上の  
注意事項

多他職種連携に必要なコミュニケーション能力や姿勢についても意識してほしい

授業科目	社会福祉調査の基礎		単位/時間	2単位/30時間
開講学科等	福祉保育学科2年		担当教員	玉里 恵美子
授業の目的・テーマ	①社会福祉調査の基本的な知識を得る ②社会福祉調査を実際に経験し、報告する			
授業の到達目標	①社会福祉調査の基本的な知識を得ることができる ②社会福祉調査を実際に経験し、報告することができる			
授業の計画	1	オリエンテーション	26	振り返り/グループワーク
	2	社会福祉調査とは	27	報告書作成①
	3	社会福祉調査の事例①	28	報告書作成②
	4	社会福祉調査の事例②	29	プレゼンテーション①
	5	調査方法①量的調査	30	プレゼンテーション②/まとめ
	6	調査方法②質的調査	31	
	7	調査の企画①課題設定	32	
	8	調査の企画②計画	33	
	9	振り返り/グループワーク	34	
	10	振り返り/グループワーク	35	
	11	調査項目の設定①クエスチョンの立て方	36	
	12	調査項目の設定②調査票を作成する	37	
	13	調査対象の設定①対象の決定	38	
	14	調査対象の設定②対象との交渉	39	
	15	振り返り/グループワーク	40	
	16	振り返り/グループワーク	41	
	17	実査①	42	
	18	実査②	43	
	19	データクリーニング①	44	
	20	データクリーニング②	45	
	21	データ入力①	46	
	22	データ入力②	47	
	23	集計方法①単純集計	48	
	24	集計方法②クロス集計	49	
	25	振り返り/グループワーク	50	
授業の方法	講義を中心に、適宜グループワーク演習を行う			
テキスト/参考文献	コピー教材を配布します			
評価の方法や基準	小テスト20%、期末試験・レポート60%、授業への参加態度20%			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	高知市社会福祉協議会/地域事例検討会スーパーバイザー（現在に至る）			
実務経験の活かし方	社会調査の経験があり授業に活かすことができる			
履修上の注意事項				

授業科目	地域福祉と包括的支援体制①	単位/時間	4 / 60	
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	安岡 航	
授業の目的・テーマ	地域福祉の歴史的展開を踏まえて、現代の地域福祉の概要からソーシャルサポートネットワークの考え方、コミュニティソーシャルワークの機能、地域でのトータルケア等を学習する。			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉サービスに関する制度、資格、施設の現場、支援の実際等々を理解する。</li> <li>地域福祉の理論と方法に関する概要を理解する。</li> </ul>			
授業の計画	1	オリエンテーション	26	専門多職種のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク①
	2	地域福祉の発展過程	27	専門多職種のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク②
	3	行政と住人との協働による新しい福祉としての地域福祉	28	専門職と住民との関係
	4	新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉	29	地域福祉推進における住民参加の意義
	5	福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体の形成	30	市町村社会福祉行政における住民参加
	6	地域福祉理論の発展と広がり	31	
	7	地域自立生活支援と地域福祉の理念①	32	
	8	地域自立生活支援と地域福祉の理念②	33	
	9	地域のとらえ方と福祉圏域	34	
	10	地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の有機的連携	35	
	11	地域福祉の発展過程推進と福祉教育	36	
	12	地域福祉の推進と福祉教育の歩み	37	
	13	福祉教育の概念と内容	38	
	14	福祉社会における地方分権化と地域福祉計画	39	
	15	社会福祉協議会の役割と実際	40	
	16	社会福祉法人の役割と意義	41	
	17	特定非営利活動法人の役割とボランティア活動	42	
	18	民生委員・児童委員・保護司	43	
	19	福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献	44	
	20	コミュニティソーシャルワークの考え方①	45	
	21	コミュニティソーシャルワークの考え方②	46	
	22	コミュニティソーシャルワークの展開とシステム①	47	
	23	コミュニティソーシャルワークの展開とシステム②	48	
	24	コミュニティソーシャルワークの方法①	49	
	25	コミュニティソーシャルワークの方法②	50	
授業の方法	テキストに基づく講義、演習等			
テキスト/参考文献	新・社会福祉士養成講座9 「地域福祉の理論と方法」(中央法規出版)			
評価の方法や基準	筆記試験もしくはレポートにより理解度を評価する。加えて出席数と講義中の態度も評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記入する。	○			
実務経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害者支援施設 障害児通所支援サービス(主任)</li> <li>障害者就労支援施設(サービス管理責任者)</li> </ul>			
実務経験の活かし方	<ul style="list-style-type: none"> <li>制度、資格、施設の現場、支援の実際等々、具体的な事例を含めて説明する。</li> <li>地域福祉の理論と方法の実際を現場の実践をつうじて具体的に説明する。</li> </ul>			
履修上の注意事項	授業に関する課題(情報収集や演習課題)を出す場合あり。			

授業科目	ソーシャルワークの基盤と専門職		単位/時間	4/60
開講学科等	保育福祉学科 2年		担当教員	近藤 多美
授業の目的・テーマ	ソーシャルワーカー専門職を理解する。 ソーシャルワーカーとして基礎的な学びと将来ソーシャルワーカーとして働くための土台として学びを理解する。			
授業の到達目標	1, ソーシャルワークの専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけを学ぶ。 2, ソーシャルワークの概念・基盤となる考え方、ソーシャルワークの誕生から今日に至る歴史的な形成過程、倫理を学ぶ。			
授業の計画	1	1, 社会福祉士と精神保健福祉士について	26	5, ソーシャルワークの倫理
	2	①, ソーシャルワーク専門職である社会福祉士と精神保健福祉士	27	①専門職倫理の概念
	3	②, 社会福祉士法及び介護福祉士法	28	②倫理綱領
	4	③, 精神保健福祉士法	29	③倫理的ジレンマ
	5	④, 社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性	30	6, ソーシャルワークに係る専門職の概念と
	6	⑤, 社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー	31	範囲
	7	①, ソーシャルワーク専門職の概念と範囲	32	①、ソーシャルワーク専門職の概念と範囲
	8	2, ソーシャルワークの概念	33	②社会福祉士の職域と役割
	9	①, ソーシャルワークの定義	34	③多様な組織・機関・団体における専門職
	10	②ソーシャルワークの構成要素	35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14	3, ソーシャルワークの基盤となる考え方	39	
	15	①, ソーシャルワークの原理	40	④諸外国の動向
	16		41	7, ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける
	17	②ソーシャルワークの理念	42	ソーシャルワーク
	18		43	①、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける
	19	4, ソーシャルワークの形成過程	44	ソーシャルワークの対象
	20	①, ソーシャルワークの源流と基礎確立期	45	
	21	②ソーシャルワークの発展期	46	②、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける
	22		47	ソーシャルワークの展開
	23	③, ソーシャルワークの展開期と統合化	48	
	24	④, 日本におけるソーシャルワークの形成	49	
	25	過程	50	
授業の方法	テキストを通じて			
テキスト/参考文献	テキスト・法的な関係資料・日本社会事業の歴史・社会福祉総論・事例等			
評価の方法や基準	授業態度・提出物・発表・ミニテスト			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	居宅介護支援事業所での介護支援専門員としての介護保険の計画の作成と相談業務			
実務経験の活かし方	多職種協働で仕事をしているので、困難だったことや解決可能であったことなどの対策や方法についてと法律的な対応についてなど			

履修上の 注意事項	
--------------	--

授業科目	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	単位／時間	4 / 60
開講学科等	保育福祉学科 2年	担当教員	近藤 多美
授業の目的・テーマ	ソーシャルワーカー専門職を理解する。 ソーシャルワーカーとして基礎的な学びと将来ソーシャルワーカーとして働くための土台として学びを理解する。		
授業の到達目標	1, ソーシャルワークの専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけを学ぶ。 2, ソーシャルワークの概念・基盤となる考え方、ソーシャルワークの誕生から今日に至る歴史的な形成過程、倫理を学ぶ。		
授業の計画	1	7, 総合的かつ包括的な支援と多職種連携	26
	2	の意義と内容	27
	3	①総合的かつ包括的な支援におけるジェネ	28
	4	ラリストの視点	29
	5	②ジェネラリストの視点に基づく総合的	30
	6	かつ包括的な支援の意義と内容	31
	7	③多職種連携及びチームアプローチの意義と	32
	8	内容	33
	9	・事例を使用しての勉強	34
	10	・医療・福祉・法律・教育場面でのソーシャル	35
	11	ワーカーとしての仕事について	36
	12		37
	13		38
	14		39
	15		40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	テキストを通じて		
テキスト/参考文献	テキスト・法的な関係資料・事例等		
評価の方法や基準	授業態度・提出物・発表・ミニテスト		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	居宅介護支援事業所での介護支援専門員としての介護保険の計画の作成と相談業務		
実務経験の活かし方	多職種協働で仕事をしているので、困難だったことや解決可能であったことなどの対策や方法についてと法律的な対応についてな		

履修上の 注意事項	
--------------	--

授業科目	ソーシャルワーク演習	単位/時間	2単位/30時間
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	土居 光世
授業の目的・テーマ	援助者としての資質・技術を養成、訓練する。また、技術の底流にある人間観、援助観への理解を深め、技法の体得に取り組むことを目的とする。		
授業の到達目標	ソーシャルワークの目的・使命・価値等について理解し、基本的な視点と知識を身につけることができる。		
授業の計画	1	社会福祉援助の視点	26 支援プログラムの作成から実行②
	2	自己覚知の重要性	27 モニタリングと評価
	3	相手の立場に立つ	28 再アセスメントと評価
	4	自分を表現する	29 まとめ
	5	自己理解と他者理解	30
	6	専門的な援助関係の形成	31
	7	インテーク面接	32
	8	ソーシャルワーカーの準備と役割	33
	9	面接の技法①	34
	10	面接の技法②	35
	11	面接の技法③	36
	12	プライバシーへの配慮（守秘義務）	37
	13	ソーシャルワーカーの倫理①	38
	14	ソーシャルワーカーの倫理②	39
	15	ジェノグラムの書き方①	40
	16	ジェノグラムの書き方②	41
	17	フェイスシートの書き方①	42
	18	フェイスシートの書き方②	43
	19	エコマップの書き方①	44
	20	エコマップの書き方②	45
	21	問題把握からニーズの確定①	46
	22	問題把握からニーズの確定②	47
	23	アセスメントから支援標的・目標設定①	48
	24	アセスメントから支援標的・目標設定②	49
	25	支援プログラムの作成から実行①	50
授業の方法	講義・演習		
テキスト/参考文献	最新社会福祉士養成講座 ソーシャルワーク演習[共通科目] 中央法規		
評価の方法や基準	出席率、授業姿勢、演習報告書、レポート		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会（地域福祉の推進・相談業務等）</li> <li>・居宅介護支援事業所（管理者・主任介護支援専門員）</li> <li>・地域包括支援センター（総合相談・権利擁護・高齢者虐待・地域ケア会議・多職種ネットワークの構築等）</li> </ul>		
実務経験の活かし方	ミクロ・メゾ・マクロレベル等相談援助にかかる知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得するような授業を行う。		
履修上の注意事項	授業や演習課題、レポートに対し、積極的に参加・発言する姿勢を心がけて下さい。		

授業科目	ソーシャルワーク演習（専門）①	単位／時間	2単位/30時間
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	土居 光世
授業の目的・テーマ	援助者としての資質・技術を養成、訓練する。また、技術の底流にある人間観、援助観への理解を深め、技法の体得に取り組むことを目的とする。		
授業の到達目標	ソーシャルワークの目的・使命・価値等について理解し、基本的な視点と知識を身につけることができる。		
授業の計画	1	ソーシャルワーク演習の意義と目的	26 事例④
	2	社会福祉士に求められる役割	27 事例④
	3	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション	28 事例④
	4	事例①	29 事例④
	5	事例①	30 まとめ
	6	ケース発見とインテーク①	31
	7	ケース発見とインテーク②	32
	8	アセスメント①	33
	9	アセスメント②	34
	10	プランニング①	35
	11	プランニング②	36
	12	支援の実施とモニタリング①	37
	13	支援の実施とモニタリング②	38
	14	支援の終結と結果評価 アフターケア①	39
	15	支援の終結と結果評価 アフターケア②	40
	16	ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー①	41
	17	ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー②	42
	18	事例②	43
	19	事例②	44
	20	事例②	45
	21	事例②	46
	22	事例③	47
	23	事例③	48
	24	事例③	49
	25	事例③	50
授業の方法	講義・演習		
テキスト/参考文献	最新社会福祉士養成講座 ソーシャルワーク演習[社会専門] 中央法規		
評価の方法や基準	出席率、授業姿勢、演習報告書、レポート		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会（地域福祉の推進・相談業務等）</li> <li>・居宅介護支援事業所（管理者・主任介護支援専門員）</li> <li>・地域包括支援センター（総合相談・権利擁護・高齢者虐待・地域ケア会議・多職種ネットワークの構築等）</li> </ul>		
実務経験の活かし方	マイクロ・メゾ・マクロレベル等相談援助にかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得するような授業を行う。		

履修上の  
注意事項

授業や演習課題、レポートに対し、積極的に参加・発言する姿勢を心がけて下さい。

授業科目	ソーシャルワーク実習指導①	単位/時間	4単位/60時間
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	柴岡 由絵
授業の目的・テーマ	社会福祉機関・施設での実習に向けて必要な知識、心構えを身につける。また、対人援助の場面で重視される考察力を「書く」、「話す」表現方法を磨きながら、実習についての理解を深める。		
授業の到達目標	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）および施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解するとともに、実際に実習を行う分野を選択できるようにする。		
授業の計画	1	ソーシャルワーク実習とは	26 実習目標を設定する
	2	ソーシャルワーク実習で得られるもの	27 スーパービジョン①
	3	社会福祉士とは	28 スーパービジョン②
	4	社会福祉士の業務	29 実習記録ノートの作成①
	5	社会福祉協議会の社会福祉士の業務	30 実習記録ノートの作成②
	6	障害者支援施設の社会福祉士の業務	31 相談援助実習後における学習と事後指導
	7	ソーシャルワーク実習のしくみ	32 実習報告書の作成①
	8	相談援助実習の目標	33 実習報告書の作成②
	9	相談援助実習の準備と事前学習	34 実習報告書の作成③
	10	実習の場を学習する意義	35 専門職としての自己覚知①
	11	実習先の決定に向けての流れ	36 専門職としての自己覚知②
	12	事務手続き及び依頼方法	37 実習先との今後のつながり
	13	相談援助実習の準備と事前学習	38 相談援助実習モデル
	14	実習計画書の作成①	39 福祉事務所
	15	実習計画書の作成②	40 児童相談所
	16	実習先とのオリエンテーション①	41 社会福祉協議会
	17	実習先とのオリエンテーション②	42 特別養護老人ホーム
	18	実習に向けての心構え①	43 介護老人保健施設
	19	実習に向けての心構え②	44 地域包括支援センター
	20	相談援助実習時の学習	45 障害者相談支援施設
	21	実習生として求められる姿勢①	46 障害者福祉サービス事業所
	22	実習生として求められる姿勢②	47 障害者支援施設
	23	利用者・職員とのコミュニケーション①	48 障害児支援施設
	24	利用者・職員とのコミュニケーション②	49 児童養護施設
	25	実習テーマや達成課題に向けての取り組み	50 母子生活支援施設
授業の方法	講義、社会福祉施設・機関見学、グループワーク		
テキスト/参考文献	『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』（中央法規）スモールステップで学ぶソーシャルワーク実習（星和書店）		
評価の方法や基準	期末考査（40％）、レポート（30％）、授業態度（出席状況を含む）（20％）、意欲・関心（10％）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM（在宅）		
実務経験の活かし方	実際の臨床現場でのソーシャルワーク、ケアマネジメント、実習生受入実績を通して、実習事前事後の学習方法を指導していく。		

履修上の 注意事項	特に無し
--------------	------

授業科目	ソーシャルワーク実習指導①		単位/時間	4単位/60時間
開講学科等	福祉保育学科2年		担当教員	柴岡 由絵
授業の目的・テーマ	社会福祉機関・施設での実習に向けて必要な知識、心構えを身につける。また、対人援助の場面で重視される考察力を「書く」、「話す」表現方法を磨きながら、実習についての理解を深める。			
授業の到達目標	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）および施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解するとともに、実際に実習を行う分野を選択できるようにする。			
授業の計画	51	一般病院	76	
	52	精神科病院	77	
	53	地域活動支援センター	78	
	54	相談援助実習Q&A	79	
	55	実習前Q&A	80	
	56	実習中Q&A	81	
	57	実習後Q&A	82	
	58	実習に向けてワンポイントアドバイス	83	
	59	先輩からのワンポイントアドバイス	84	
	60	まとめ	85	
	61		86	
	62		87	
	63		88	
	64		89	
	65		90	
	66		91	
	67		92	
	68		93	
	69		94	
	70		95	
	71		96	
	72		97	
	73		98	
	74		99	
	75		##	
授業の方法	講義、社会福祉施設・機関見学、グループワーク			
テキスト/参考文献	『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』（中央法規）スモールステップで学ぶソーシャルワーク実習（星和書店）			
評価の方法や基準	期末考査（40%）、レポート（30%）、授業態度（出席状況を含む）（20%）、意欲・関心（10%）			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM（在宅）			
実務経験の活かし方	実際の臨床現場でのソーシャルワーク、ケアマネジメント、実習生受入実績を通して、実習事前事後の学習方法を指導していく。			

履修上の 注意事項	特に無し
--------------	------

授業科目	ソーシャルワーク実習①	単位/時間	1単位/60時間
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	柴岡 由絵
授業の目的・テーマ	社会福祉士受験資格取得のため、指定の施設・機関にて60時間以上、8日以上の現場実習を行う。これにより、社会福祉専門職として必要な職業倫理や専門的価値・知識・技術を現場において身につける。ソーシャルワークに関する授業において学習した内容を活かし、高い意識を持って実習に臨む。		
授業の到達目標	社会福祉専門職として必要な職業倫理や専門的価値・知識・技術を職種・職場・ソーシャルワーク実際に体験し、社会福祉士として具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得できる。		
授業の計画	1	【実習機関・施設の役割、機能の理解】	26
	2	職場実習	27
	3	・機関・施設概要の把握	28
	4	・業務内容・1日の流れの把握	29
	5	・実習目標の確認	30
	6	・積極的な言動	31
	7	・実習日誌への適切な記録	32
	8		33
	9		34
	10		35
	11		36
	12		37
	13		38
	14		39
	15		40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	実習		
テキスト/参考文献	事業内容に応じて随時紹介		
評価の方法や基準	実習先からの実習評価表に基づいて行う。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM (在宅)		
実務経験の活かし方	現場の実態を伝えながら、現場理解が深められるようにする。		

履修上の 注意事項	社会福祉現場で求められる援助者としての価値・知識・技術を体得するとともに、実習での経験が将来の方向性を定めるための判断材料になるように、自ら援助者・利用者に積極的に働きかけること。
--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目	ソーシャルワーク実習	単位/時間	1単位/60時間
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	柴岡 由絵
授業の目的・テーマ	社会福祉士受験資格取得のため、指定の施設・機関にて60時間以上、8日以上の現場実習を行う。これにより、社会福祉専門職として必要な職業倫理や専門的価値・知識・技術を現場において身につける。ソーシャルワークに関する授業において学習した内容を活かし、高い意識を持って実習に臨む。		
授業の到達目標	社会福祉専門職として必要な職業倫理や専門的価値・知識・技術を職種・職場・ソーシャルワーク実際に体験し、社会福祉士として具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得できる。		
授業の計画	51	【実習機関・施設の役割、機能の理解】	
	52	職場実習	
	53	・機関・施設概要の把握	
	54	・業務内容・1日の流れの把握	
	55	・実習目標の確認	
	56	・積極的な言動	
	57	・実習日誌への適切な記録	↓
	58		
	59		
	60		
	授業の方法	実習	
テキスト/参考文献	事業内容に応じて随時紹介		
評価の方法や基準	実習先からの実習評価表に基づいて行う。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM (在宅)		
実務経験の活かし方	現場の実態を伝えながら、現場理解が深められるようにする。		

履修上の 注意事項	社会福祉現場で求められる援助者としての価値・知識・技術を体得するとともに、実習での経験が将来の方向性を定めるための判断材料になるように、自ら援助者・利用者に積極的に働きかけること。
--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------